

1. 実践活動の概要

地方都市における市街地活性化が必要とされているが、地域社会の中における「地域力」を強化するような政策がうまくいった事例は未だ少ない。そのような中、地域社会を取り巻く背景が変化しても、柔軟に対応できるような「地域力」として、ソーシャルネットワークに着目し、われわれ学生による戦略的試行錯誤を実施して、これに基づく具体的な行動指針を提案したい。

都市・景観研究室では、昨年末から美殿町の空きビルにおいて、学生と地域の人々による自らの手により、内装解体・新装の床張り・壁塗り・棚などの造作に至る全ての過程を実践しながら、岐阜市中心部の美殿町にサテライト研究室『美殿町ラボ』を作ってきた。このプロセスは、次々とプロ・アマを問わず周辺の人々を結びつけながら展開する「まちづくり」そのものだった。

今後は、美殿町ラボを拠点として、さらに周囲のまちおよび周辺の人々のネットワークを広げ・緊密にするための手立てが必要であると考えている。



Before



After



空きビルや美殿町ラボの活用例



活動の流れ

- ① 美殿町ラボ開設によって生まれたコミュニティ内で情報を収集して、美殿町の界隈にある困りごとを見つける。
- ② 学生が関与すべき案件が検証して、妥当であれば協力を申し出る。
- ③ 困りごとを解決するための実践。

2. 実践活動の内容

【活動1：催しごとの手伝い】

(内容)

美殿町商店街の関係者が運営する催しへスタッフとして参加した。

- ・美殿町秋祭りの手伝い、記録
- ・柳ヶ瀬サンデービルディングマーケットの機材準備、設営、当日運営



(結果)

- ・美殿町ラボの学生が所属するコミュニティの拡大
- ・参画する催しの増加
- ・道具やノウハウを融通できる環境の必要性を把握



【活動2：視察への対応】

(内容)

- ・ラボ開設の経緯を紹介
- ・美殿町商店街を案内
- ・美殿町界隈の催しごとを紹介

(結果)

- ・増加：継続して催しへ参加する学生
- ・出現：美殿町への転居希望



【活動3：情報の発信/蓄積】

(内容)

- ・商店街の公式ブログへ寄稿

(結果)

- ・利害関係者では発信しづらい情報を、学生が第三者の立場で広められた。



3. 今後の方針

・拡大したコミュニティでの必要物品やスキルの融通
→実行可能な行動の選択肢が増えることで、多彩な取り組みが誘発される。

・定点観測、ヒアリング調査
→美殿町商店街を訪れた人の特性を把握し、有益な情報を街へ還元する。

